

令和 7 年 1 2 月 1 日

見附市議会議員 様

見附市議会議員 星野 雄哉

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第 6 1 条第 2 項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【 1 】 市長 2 期目の市政運営の基本方針と公約の具体化について

答弁を求める者 市長

1 令和 7 年に執行された見附市長選挙においては、立候補者が現職のみとなり、選挙戦が行われないうまま無投票により 2 期目の市政運営が決定する結果となりました。地方自治体における首長選挙は、市民が地域の将来像や行政運営の方向性について判断を下す重要な機会ではありますが、無投票となった場合には、その判断材料となる政策論争や公約提示の機会が限定されるという構造的課題が全国的にも指摘されています。

今回の市長選挙においては、支援者に選挙活動用ビラ(資料①)が配られるなど公約の提示が限定的であったことから、市民の皆様に対し、市長が 2 期目において何を目指し、どのような政策方針を掲げて市政運営に臨むのか、その全体像が十分に共有されたとは言い難い状況であったと認識しております。一方で、無投票であるか否かにかかわらず、選挙後の定例会において、市長が新たな任期に臨むに当たり明確な方針を示すことは、議会・市民双方にとって必要不可欠であり、説明責任の観点からも極めて重要であります。

市議会はいままで委員会活動や一般質問等を通じ、市の主要施策や課題の分析に努めてまいりましたが、2 期目の市政運営においては、これまでの取組の継続と発展に加え、新たな政策課題に対してどのような戦略を描くのか、さらに公約と第 6 次総合計画や中長期財政見通しとの整合性をどのように確保していくのかが問われる局面にあります。加えて、今回の無

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ



投票によって市民が直接的な判断の機会を持たなかったからこそ、議会が代わって政策の方向性を確認する責務は従前にも増して重要になっていると考えております。

以上の認識の下、市長の２期目における公約の具体的内容、市政課題に対する認識について確認するとともに、見附市の将来ビジョンを市民に共有していくべく、以下質問いたします。

(１) ２期目の公約「４つの約束」の政策体系全般について

ア １期目で掲げた７つの柱から、２期目の公約では政策体系を４区分に再整理していますが、聖域なき検証・見直しによりブラッシュアップされた点、あるいは見直しの結果削除に至った点があればお伺いします。

イ １期目よりも優先度を下げた政策分野はあるか、ある場合はその理由は何かお伺いします。

ウ 公約は、全体的に方向性は示していますが具体的な最終到達点は読み取れず、理念に留まる印象を受けます。掲げた公約の４つの約束それぞれにおいて、今任期の４年間で達成すべき市政運営の「出口目標（アウトカム）」をどのように設定しているのか、政策効果としてどのような状態を目指すのかお伺いします。

エ いまだに分譲が進まないウエルネスタウンみつけについて、公約でも演説においても全く触れられておりません。重要課題の一つであるウエルネスタウンみつけの販売について公約に掲げなかったことは、完売に向けた関心、意欲の低さの表れとも見て取れますが、公約で掲げなかった理由と今任期でどのように完売を目指すのかお伺いします。

(２) 公約の具体的内容について

※ 番号のつけ方 (大項目) １ ２ ３ (中項目) (１) (２) (３) (小項目) アイウ

ア 市長は最重要課題を人口減少対策と位置づけ、地域の魅力と発信の強化を打ち出しています。人口減少は複合的要因で起きますが、我が国および地方自治体の人口減少に関する研究では、若年層の定着を促すには、「安定的な働き場の確保」と「子育て世帯を含む生活インフラの充実」という二本柱の政策が最も効果的とされています。安定的な働き場の確保については、企業誘致が肝要と考えますが、公約における「企業誘致環境・体制強化」とは何を指すのかお伺いします。

イ 公約に「子育て世帯の負担軽減」を進めるとありますが、負担軽減には多様な領域（保育料、給食費、医療費、学用品費、放課後、移動、住宅、出産関連費など）が存在します。市長が想定する「負担軽減」の対象領域は具体的に何なのかお伺いします。

ウ 子育て世帯の負担軽減により、どのような状態になることを目指すものなのかお伺いします。

エ 小中学校の再編についてお伺いします。再編を着実に進めるとありますが、2期目の任期を終える令和11年までにどこまで進めて形にするのか、お考えをお伺いします。

オ 市は本年10月の議員協議会において、見附駅東西自由通路整備について「現段階で断念」と説明し、後期事業計画に移行する方向性を示しました。しかし市長公約には、駅周辺整備の重点施策として民間投資誘導に取り組む旨の記述はあるものの、東西自由通路断念の判断・後期計画の方向性は明記されていません。公約に掲げなかった理由と後期事業計画における駅周辺整備の方向性と投資規模の見通しをお伺いします。

カ 人口減少が進む中、AI活用などのDX化は極めて重要な要素であり、全国的にも自治体経営の柱となりつつあります。公約では「AIなどのDXをフル活用し、市民生活の向上や業務の効率化につなげます」とありますが、見附市としてDX化をどのような位置

づけで捉えているのか、その基本認識と重点的に取り組む分野の具体的な方向性をお伺いします。

キ ふるさと納税についても歳入確保と魅力創造の面で欠かせません。ふるさと納税の強化による産業振興について、今後4年間でどの程度の寄附額を目標とし、その達成のために返礼品開発・事業者育成・市内経済への波及効果をどのように設計していくのか、目標額と政策の一体設計についてお伺いします。

(3) 無投票という結果に対する市長自身の受け止めについて

ア 市民の意思表示として、今回の市長選挙が無投票となったことについて、市長自身はどう受け止めているのか、見附市の課題とそれに対する解決策の政策論争が起こらなかったことをどのように捉えているのかお伺いします。

イ 今回の選挙では、公約が告示直前に提示され、政策説明の時間・範囲が極めて限られておりました。無投票となった結果、市民が公約内容を吟味する場や機会も不足したと考えますが、市長として「2 期目の公約」が市民に十分伝わった上で再選を果たしたと認識しているかお伺いします。

みんなでつくろう！
暮らし満足No.1のまちを

見附市長候補

稲田
いなり
なよう
亮

実績を未来につなぐ。

誰もが「このまちで暮らせてうれしい」と実感でき、自然と笑顔があふれる。
そんな「魅力あふれる見附の未来」を、市民の皆さんとともにつくっていきます。

守ります！
4つの約束

1. 活力とにぎわいあふれるまちにします。

- ・リターンなどの移住や関係人口づくりを戦略的にを行い、人口減少対策をより一層進めます。
- ・稼げる農業・商工業へ人材確保・チャレンジ・連携の支援や、企業誘致環境・体制強化を進めます。
- ・市街地周辺の宅地化や、見附駅周辺地域など拠点地域への民間投資誘導に取り組みます。
- ・通学を含む子どもや高齢者などの交通手段について、あらゆる方法の結集で充実を目指します。
- ・地域コミュニティや市民活動などを支えるとともに連携を促し、地域の活力につなげます。

2. 未来を担う人を育むまちにします。

- ・子どもを第一に小中学校の再編を着実に進め、体育館や特別教室の空調など環境整備を図ります。
- ・未来につながる「JOB チャレ教育」の充実や、スポーツ・文化活動などの選択肢確保を図ります。
- ・子育て世帯の負担軽減や、働きながら育てられる環境づくりをより一層進めます。
- ・道の駅への大型遊具設置など、子どもや若者の声を踏まえた魅力の創出や誘致を進めます。
- ・若者による地域づくりのチャレンジや、市内高校の魅力づくりを後押しします。

3. 安心していきいき暮らせるまちにします。

- ・実態に即した訓練実施や情報発信など、自助・共助・公助による災害時対応能力を一層強化します。
- ・施設の耐震化や水害・老朽化・空き家対策を進めるほか、持続可能な雪対策の充実を図ります。
- ・診療所の誘致や市立病院の医師確保などにより地域医療の維持・充実を図ります。
- ・「障がいや理由とする差別のない誰もが共に暮らせるまちづくり条例」に基づく啓発や環境づくりを進めます。
- ・高齢者の社会参加機会の維持・充実や、認知症になっても共生できる社会の実現を目指します。

4. 未来に向けた持続可能な市政運営を進めます。

- ・AIなどのDXをフル活用し、市民生活の向上や業務の効率化につなげます。
- ・市の収入増に向けてふるさと納税などの強化をさらに進め、産業振興にもつなげます。
- ・施設と運営両面から公共施設の最適化を進め、財政体質の改善と魅力維持向上の両立を目指します。

証紙